

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年10月15日

**【四半期会計期間】** 第22期第2四半期（自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日）

**【会社名】** 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド

**【英訳名】** Samantha Thavasa Japan Limited

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 寺田和正

**【本店の所在の場所】** 東京都港区北青山1丁目2番3号

**【電話番号】** 03-5412-8193

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役 古市知元

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区北青山1丁目2番3号

**【電話番号】** 03-5412-8193

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役 古市知元

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第21期 第2四半期 連結累計期間	第22期 第2四半期 連結累計期間	第21期
会計期間		自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日	自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日	自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日
売上高	(千円)	19,027,260	21,055,722	40,294,070
経常利益	(千円)	1,753,824	1,604,923	3,370,911
四半期(当期)純利益	(千円)	853,041	779,521	1,483,606
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	849,052	750,986	1,389,236
純資産額	(千円)	9,505,163	10,372,782	9,868,868
総資産額	(千円)	20,267,767	23,541,981	21,986,303
1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	24.17	22.09	42.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	45.6	43.2	43.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	494,579	1,350,465	1,415,652
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	564,252	1,152,966	1,786,811
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,325,707	2,180,842	1,443,370
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,792,295	3,214,113	3,557,379

回次		第21期 第2四半期 連結会計期間	第22期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日	自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	1.25	5.23

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりです。

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社レストローズを、連結子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドとの吸収合併による消滅に伴い連結の範囲から除外しております。

なお合併に伴い、存続会社の商号を株式会社バーンデストローズジャパンリミテッドに変更しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日本銀行の各種政策を背景に、企業部門に改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続きました。一方、円安による輸入価格上昇の影響、中国経済の減速懸念など、景気の先行については不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、外国人旅行者の増加によるインバウンド効果等により好調に推移する一方で、円安による物価の上昇や消費税増税後の節約志向など、不透明な状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。また、当社グループの2015年のテーマを「記念日」として、様々なキャンペーンを実施してまいりました。

#### <店舗展開について>

出店戦略として、多くの話題スポットや新しい地域への出店、大型商業施設との取組みなどを行ってまいりました。

バッグ事業においては、26店舗を出店いたしました。リニューアルオープンしたルクア大阪に西日本の旗艦店になる「サマンサタバサ ターミナル7 ルクア大阪店」を出店いたしました。また、国内最大級の商業施設であるイオンレイクタウンに、「サマンサベガ イオンレイクタウンkaze店」など、4ブランド出店いたしました。また、沖縄県では初出店となる「サマンサベガ&シュエット ギャラリー イオン沖縄ライカム店」、熊本県では「サマンサタバサ 鶴屋店」「サマンサタバサプチチョイス 鶴屋店」、大分県では「サマンサベガ&シュエット ギャラリー アミュプラザおおいた店」「サマンサタバサプチチョイス アミュプラザおおいた店」を出店いたしました。さらに、新概念ショップ「ミミマルシェ サマンサタバサプチチョイス」をルミネ有楽町に、新業態店舗「サマンサ&シュエット スイーツ カフェ」を大阪ステーションシティノースゲートビルディング西館商業施設「LUCUA 1100」(ルクア イーレ)に出店いたしました。海外においては、韓国、シンガポールでそれぞれ2店舗、香港、中国でそれぞれ1店舗の出店を行い、合計6店舗出店いたしました。

アパレル事業においては、18店舗出店いたしました。株式会社ルミネと共同開発した新ブランド「And Couture (アンド クチュール)」を、ルミネ新宿、ルミネ有楽町、ルミネ横浜に出店いたしました。また、昨年度より展開しているブランド「REDYAZEL(レディアゼル)」をSHIBUYA109、LUCUA 1100(ルクアイーレ)、天神地下街、ルミネ横浜に、「MULLER(ミュラー)」を池袋パルコ、ルミネエスト新宿に出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計でブランド変更を含め、前年度末比で23店舗増加し、期末店舗数は439店舗となりました。

#### <プロモーション活動について>

プロモーション活動としては、積極的なCMプロモーションや、多数のファッション誌への掲載、ファッションショーへの協賛などを継続して行ってまいりました。

バッグ事業においては、世界のトップモデルでサマンサミューズのミランダ・カー出演の「Samantha Thavasa ~365日、毎日が記念日~」のCMを放映いたしました。本CMでは、本物のパールを生地にあしらひ、きめ細や

かなパール感とエナメルならではの光沢感がポイントのサマンサタバサの大人気商品である「レディアゼル」のニューシリーズを紹介し、浜崎あゆみさんのCM楽曲も話題となりました。

また、EXILEのD.N.Aを受け継ぎ本格的なダンスパフォーマンスを展開する女性グループ「E-girls」の楓さん、藤井夏恋さん、藤井萩花さん、佐藤晴美さんが出演し、当社グループの本年度のテーマである「記念日」と連動した「E-girls」の最新曲「Anniversary!!」をCM楽曲とした、「Samantha Vega meets E-girls」のCMを放映いたしました。

さらに、アジア最高峰のリアルクローズファッションショー「神戸コレクション」「東京ランウェイ」に協賛し、「サマンサタバサ」やアパレルの新ブランド「アンド クチュール」の新作商品をステージでお披露目いたしました。

ジュエリー事業においては、Samantha Tiara & Samantha Thavasa「サマンサティアラ ジュエリー」の第3弾となるCMを放映し、三代目J Soul Brothers from EXILE TRIBEから、岩田剛典さん、今市隆二さん、登坂広臣さんが出演いたしました。また、本CMのお披露目会が開業3周年となる東京スカイツリータウン<sup>®</sup>で行なわれ、CM出演者による東京スカイツリー<sup>®</sup>オリジナルブルーライティング点灯式も合わせて行なわれ話題となりました。

ゴルフ事業においては、当社グループが主催する女子ゴルフトーナメントである、「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント 2015」を、7月17日(金)～19日(日)の3日間、茨城県・イーグルポイントゴルフクラブで開催し、大会3日間で過去最高の2万人以上の方にご来場いただきました。

#### < 商品戦略について >

各ブランド事業において新作を販売し、多様化するファッションニーズに応える商品を積極的に展開してきました。また、商品の魅力をより高める雑誌や人気モデルとのコラボレーションを継続し、商品の販売増につながりました。

バッグ事業においては、高品質のレザー商品である「レディアゼル」「アゼルラフィー」「アゼルフルーリ」が堅調に推移いたしました。また、2015年春のCMで大人気の「レディアゼル」のパールエナメルシリーズや、レザー素材のポストンバッグで、国産牛革の厚みのあるものだけを選別し丸みがあるフォルムの「サニーノア」を販売いたしました。昨春に続き三越伊勢丹グループ、バンダイとの共同企画で「美少女戦士セーラームーン」と4ブランドの協業商品を販売し、大好評となりました。さらに、バッグを始めスイーツやかわいい小物など、大人気の「ふなっしー」とのコラボで大きな話題になりました。その他に、ディズニー映画「シンデレラ」の公開を記念した「シンデレラ」コレクションシリーズのバッグや小物、サンリオの人気キャラクター「マイメロディ」の40周年を記念したコラボレーションシリーズなど、話題性のある商品を販売いたしました。

ジュエリー事業においては、ブライダル強化とK18商品を中心に、サマンサティアラの人気シリーズ「Swingle～スウィングル～」や「フラワーレターズ」などが堅調に推移いたしました。また、昨年度に大人気パールシリーズをプロデュースし話題となった「Samantha Tiara」のプロモーションモデル兼コラボレートデザイナーでもある紗栄子さんとのコラボレーションラインの第2弾の新作ジュエリーを販売いたしました。

アパレル事業においては、株式会社ルミネと共同開発した新ブランド「And Couture(アンド クチュール)」がデビューいたしました。当ブランドは、デベロッパーであるルミネと連携し、コンセプトづくりや内装の段階から、ルミネ独自の世界観に合わせた商品開発が可能となり、ルミネのお客様の感動を創造することができる提案をしてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は210億55百万円（前年同期比10.7%増）、売上総利益は137億70百万円（前年同期比9.9%増）となりましたが、積極的な新規出店に伴う人件費や減価償却費などの先行投資やプロモーション活動に伴う販促費が増加したため、営業利益は15億80百万円（前年同期比11.3%減）、経常利益は16億4百万円（前年同期比8.5%減）、四半期純利益は7億79百万円（前年同期比8.6%減）となりました。

( 2 ) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

( 資産 )

総資産は235億41百万円であり、前連結会計年度末と比較して15億55百万円増加しております。主な増加要因は、商品及び製品が11億40百万円、差入保証金が3億68百万円増加したことなどによるものであります。

( 負債 )

総負債は131億69百万円であり、前連結会計年度末と比較して10億51百万円増加しております。主な要因は、支払手形及び買掛金が5億59百万円、未払法人税等が6億3百万円減少した一方で、1年内返済予定の長期借入金が5億81百万円、長期借入金が18億12百万円増加したことなどによるものであります。

( 純資産 )

純資産は103億72百万円であり、前連結会計年度末と比較して5億3百万円増加しております。主な増加要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ、3億43百万円減少し、32億14百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

( 営業活動によるキャッシュ・フロー )

営業活動の結果使用した資金は、13億50百万円(前年同四半期は4億94百万円の資金の増加)となりました。この主な内訳は、たな卸資産の増加額11億62百万円、法人税等の支払額13億55百万円などの支出要因が、税金等調整前四半期純利益15億70百万円、減価償却費4億65百万円などの収入要因を上回ったことなどによるものであります。

( 投資活動によるキャッシュ・フロー )

投資活動の結果使用した資金は、11億52百万円(前年同四半期は5億64百万円の資金の減少)となりました。この主な内訳は、有形固定資産の取得による支出5億70百万円、敷金及び保証金の差入による支出4億62百万円などによるものであります。

( 財務活動によるキャッシュ・フロー )

財務活動の結果得られた資金は、21億80百万円(前年同四半期は13億25百万円の資金の増加)となりました。この主な内訳は、長期借入れによる収入30億円などの収入要因が、長期借入金の返済による支出6億5百万円、配当金の支払額2億45百万円の支出要因を上回ったことによるものであります。

( 3 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

該当事項はありません。

( 4 ) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	134,400,000
計	134,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年10月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,296,000	35,296,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株であり ます。
計	35,296,000	35,296,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## ( 5 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年6月1日～ 平成27年8月31日		35,296,000		2,132,600		2,252,600

## ( 6 ) 【大株主の状況】

平成27年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
寺田 和正	東京都新宿区	22,093	62.59
五味 大輔	長野県松本市	1,220	3.45
清水 優	兵庫県川西市	708	2.00
CGML PB CLIENT ACCOUNT/C OLLATERAL (常任代理人 シティバンク銀行 株式会社)	CITIGROUP CENTRE, CANADA SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 5LB (東京都新宿区新宿6-27-30)	502	1.42
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都港区晴海1-8-11	484	1.37
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	450	1.27
THE BANK OF NEW YORK 133524 (常任代理人 株式会社みずほ銀 行決済営業部)	RUE MONTOYERSTRAAT 46, 1000 BRUSSELS, BELGIUM (東京都中央区月島4-16-13)	364	1.03
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OMO4 (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	338 PITT STREET SYDNEY NSW 2000 AUSTRALIA (東京都中央区日本橋3-11-1)	261	0.74
THE BANK OF NEW YORK 133652 (常任代理人 株式会社みずほ銀 行決済営業部)	RUE MONTOYERSTRAAT 46, 1000 BRUSSELS, BELGIUM (東京都中央区月島4-16-13)	216	0.61
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT. UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	157	0.44
計		26,460	74.97

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成27年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,293,000	352,930	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 3,000		
発行済株式総数	35,296,000		
総株主の議決権		352,930	

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年6月1日から平成27年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年3月1日から平成27年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,557,379	3,214,113
受取手形及び売掛金	3,271,427	3,261,530
商品及び製品	7,535,192	8,675,579
仕掛品	30,509	27,275
原材料及び貯蔵品	452,530	478,232
その他	1,045,461	1,154,244
貸倒引当金	1,361	1,406
流動資産合計	15,891,139	16,809,570
固定資産		
有形固定資産	1,847,671	2,119,582
無形固定資産		
のれん	813,792	766,425
その他	470,853	566,958
無形固定資産合計	1,284,645	1,333,384
投資その他の資産		
差入保証金	2,369,217	2,737,311
その他	593,630	542,132
投資その他の資産合計	2,962,847	3,279,444
固定資産合計	6,095,164	6,732,411
資産合計	21,986,303	23,541,981
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,452,270	1,893,265
短期借入金	108,600	132,990
1年内返済予定の長期借入金	960,864	1,542,024
未払法人税等	1,472,905	869,280
賞与引当金	244,736	302,440
その他	1,729,129	1,491,080
流動負債合計	6,968,504	6,231,081
固定負債		
長期借入金	5,031,376	6,844,230
その他	117,554	93,887
固定負債合計	5,148,930	6,938,117
負債合計	12,117,435	13,169,198

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年8月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	5,373,964	5,906,413
株主資本合計	9,759,164	10,291,613
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,651	39,573
為替換算調整勘定	139,856	154,353
その他の包括利益累計額合計	105,204	114,779
少数株主持分	214,908	195,949
純資産合計	9,868,868	10,372,782
負債純資産合計	21,986,303	23,541,981

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
売上高	19,027,260	21,055,722
売上原価	6,492,419	7,285,615
売上総利益	12,534,841	13,770,106
販売費及び一般管理費	1 10,753,828	1 12,189,948
営業利益	1,781,012	1,580,158
営業外収益		
受取利息	455	434
受取配当金	577	630
為替差益	3,627	31,319
補助金収入	695	1,844
その他	2,036	12,622
営業外収益合計	7,392	46,852
営業外費用		
支払利息	19,034	17,362
たな卸資産処分損	11,926	-
その他	3,620	4,725
営業外費用合計	34,581	22,087
経常利益	1,753,824	1,604,923
特別損失		
固定資産除却損	8,750	34,565
固定資産売却損	42	-
特別損失合計	8,792	34,565
税金等調整前四半期純利益	1,745,031	1,570,357
法人税、住民税及び事業税	949,357	757,441
法人税等調整額	23,151	46,023
法人税等合計	926,205	803,465
少数株主損益調整前四半期純利益	818,825	766,892
少数株主損失( )	34,215	12,629
四半期純利益	853,041	779,521

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	818,825	766,892
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,297	4,921
為替換算調整勘定	26,928	20,827
その他の包括利益合計	30,226	15,905
四半期包括利益	849,052	750,986
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	879,998	769,946
少数株主に係る四半期包括利益	30,945	18,959

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,745,031	1,570,357
減価償却費	286,035	465,305
のれん償却額	47,366	47,366
賞与引当金の増減額(は減少)	20,371	57,704
受取利息及び受取配当金	1,033	1,065
為替差損益(は益)	975	1,386
支払利息	19,034	17,362
固定資産除却損	8,750	34,565
売上債権の増減額(は増加)	529,827	9,897
たな卸資産の増減額(は増加)	859,467	1,162,855
仕入債務の増減額(は減少)	127,808	559,004
その他	480,269	455,473
小計	1,343,365	22,773
利息及び配当金の受取額	553	659
利息の支払額	20,471	18,140
法人税等の支払額	828,866	1,355,758
営業活動によるキャッシュ・フロー	494,579	1,350,465
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	511,753	570,944
無形固定資産の取得による支出	93,256	170,146
投資有価証券の取得による支出	2,999	3,000
敷金及び保証金の差入による支出	170,777	462,896
敷金及び保証金の回収による収入	232,724	74,014
その他	18,190	19,993
投資活動によるキャッシュ・フロー	564,252	1,152,966
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	582,380	32,580
長期借入れによる収入	1,100,000	3,000,000
長期借入金の返済による支出	418,109	605,986
少数株主からの払込みによる収入	203,750	-
配当金の支払額	142,314	245,751
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,325,707	2,180,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	26,579	20,676
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,282,615	343,265
現金及び現金同等物の期首残高	2,509,680	3,557,379
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,792,295	1 3,214,113

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

## (1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社レストローズを、連結子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドとの吸収合併による消滅に伴い連結の範囲から除外しております。

なお合併に伴い、存続会社の商号を株式会社バーンデストローズジャパンリミテッドに変更しております。

## (2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 偶発債務

当社の連結子会社である株式会社バーンデストローズジャパンリミテッドが加入する「東京アパレル厚生年金基金」(総合型)は、平成26年4月24日開催の代議員会において、基金解散の方針が決議されました。なお、基金を解散するにあたり、特例解散の適用を申請する予定であります。同基金の解散により費用の発生が見込まれますが、解散に伴う費用の金額と業績に与える影響につきましては、現時点では不確定要素が多く、合理的な見積り金額が算定できません。今後、見積り金額が判明した時点で、会計処理を行います。

## (四半期連結損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)
報酬及び給与手当	3,026,823千円	3,343,255千円
賞与引当金繰入額	214,057 "	302,440 "
広告宣伝費	988,984 "	777,864 "
販売促進費	580,098 "	751,255 "
地代家賃	482,185 "	474,530 "
店舗手数料	2,098,783 "	2,496,950 "
減価償却費	286,035 "	465,305 "
のれん償却額	47,366 "	47,366 "

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)
現金及び預金	3,792,295千円	3,214,113千円
預入期間が3か月を超える定期預金		
現金及び現金同等物	3,792,295千円	3,214,113千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年8月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月29日 定時株主総会	普通株式	141,184	400	平成26年2月28日	平成26年5月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月15日 取締役会	普通株式	176,480	5	平成26年8月31日	平成26年11月7日	利益剰余金

(注) 当社は、平成26年3月1日付で普通株式1株当たり100株の割合で株式分割を行っております。当該株式分割は平成26年3月1日を効力発生日としておりますので、平成26年8月31日を基準日とする1株当たり配当額につきましては、株式分割後の株式数を基準に記載しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年8月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月28日 定時株主総会	普通株式	247,072	7	平成27年2月28日	平成27年5月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年10月15日 取締役会	普通株式	176,480	5	平成27年8月31日	平成27年11月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	24円17銭	22円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	853,041	779,521
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	853,041	779,521
普通株式の期中平均株式数(株)	35,296,000	35,296,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

第22期(平成27年3月1日から平成28年2月29日まで)中間配当については、平成27年10月15日開催の取締役会において、平成27年8月31日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	176,480千円
1株当たりの金額	5円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年11月9日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年10月15日

株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大橋	一生	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中井	清二	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの平成27年3月1日から平成28年2月29日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年6月1日から平成27年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年3月1日から平成27年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド及び連結子会社の平成27年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。